

# 毎回の授業で学んだ内容を実感させる。それを実生活に実践することが学習者としての自信につながった

## 2018年度春学期ティーチングアワード受賞

対象科目：社会教育方法論 1

近年は大学教育においてもアクティブ・ラーニングが推奨されており、そのひとつの形態としてワークショップ学習が注目されている。この授業では、教員自身の社会教育現場における豊富な経験を活かし、学生自らがワークショップ学習を体験しながら理論的な解説や討議を行うという手法を取っている。実践的理論が体験的に身につくだけでなく、一人ひとりが能動的学習者としての自信をつけ、高い満足度を得る結果につながった。

### 自ら体験しながら、背景にあるワークショップの理論や方法論を学ぶ

この授業のテーマとなっている社会教育とは、学校教育以外での組織的な教育と定義されている。「成人や社会人の自由な学習活動を基本とする社会教育では、学校教育のように教える内容が決まっています。そのため、いかに参加者の興味や関心を引き出し学習活動を活発にするかが重視され、話し合いや調査など参加者主体の体験的な内容が中心となります。その方法論を学ぶのがこの授業の目的です」。

新井講師自身も学生時代にこの授業を受けたが、学習の成果を実感しにくかったと振り返る。「座学中心の授業ではピンと来ないことが多かった印象です。話し合いも導入されていたものの、その目的や意義がよく分からないまま進めていました」。

そこで、自分が講師となって受け持つこの授業においては、一回の授業ごとに何を学んだのか、を実感できるようにしたいと考えた。研究活動や財団法人のスタッフなど社会教育の現場で働いたときに身につけたノウハウを紹介しながら、ワークショップを学生たち自身に体験させ、理論と結び付けることにした。「経験がないことを言葉だけで学ぶのは難しいので、実際に体験してもらいながら学ぶのが良いと考えました」。



新井浩子

早稲田大学非常勤講師

具体的には、毎回のテーマについて各自が考えワークシートに書き込んだ後に、グループでそれをシェアし合う。さらにクラス全体の話し合いをする中に教員も加わり、背景にある理論や方法論を紹介していくという流れだ。

グループは4、5人単位で形成するが、毎回メンバーを入れ替えることはとても重要だと指摘する。「同じメンバーで続けているとリーダー役、聞き役などポジションが決まってしまうがちです。自分の新しい面を発見することも大事なため、なるべく役割が固定しないことが望ましいのです」。

### 「振り返りシート」で、毎回の授業での学びを自分自身で定義する

授業の最後には、毎回「振り返りシート」として、その日に学んだことへの感想や質問などを書いて提出してもらおう。そして、次回の授業で無記名にしたものをプリントにまとめ、コメントをつけて返却している。「採点対象ではなく、同じことをやっても感じ方は人それぞれなのでそれをシェアすることに意味があると伝え、提出をお願いしています」。



振り返りシートを書くことは、その授業が自分にとってどんな意味があったのかを定義することになり、大きな学習効果につながる。「そのままでは流れていってしまうものも、何を学んだのかを言語化することで自ら確認できます。個々人の振り返りをシェアすることで、学習経験がさらに豊かになっていき、90分の授業の波及効果は増大します」。

毎回の授業で学んだ内容を実感させることは、日常生活でも自主的にそれを取り入れてさらに学習効果が深まるという効果が生まれる。「授業で学んだ内容を踏まえてセミナーに参加してみたとか、サークルでワークショップを実践してみたという学生もいます。周囲の人に説明することによって学んだ内容が深まりますし、学んだことが現実生活で役に立つという実感を得ることもできます。その結果自信がついて授業以外の学習活動が活発になるのは、この授業の大きな成果だと感じています」。

この授業は、ワークショップの方法論をまさにワークショップという形態で学ぶわけだが、学習者としての経験は支援者になった時にもいきるといふ。「自分がうまくできなかったネガティブな経験は、将来、人の支援をする時の手がかりになります。私たちは何かを理解したり創意工夫しようとするとき自分の経験を参考にしますので、自らが学習経験を積んでいるというのは支援者養成としても大きな意味があるので」。

今回の受賞については、協力してくれた高度授業TAの力も大きかったと語る。TAとは授業の前後に30分ずつの時間を取り、その日の授業の狙いなどについて伝えるほか、終了後にはその日の様子をフィードバックしてもらう。「学生一人ひとりの様子をよく見てもらうことで、グループの組み合わせや支援の仕方なども工夫できます。今年度は優秀なTAさんについてもらったおかげで、よりきめ細かく対応することができました」。

学生アンケートでは「有意義だった」という項目で満点を獲得するなど、非常に高い評価を得た。「学生自身に大きな手応えがあったのでしょうか。一人ひとりが毎回の授業でうまくいったりいかなかったりという経験を重ね、能動的に学ぶ自信がついたのだと思います。他者からの評価ではなく、実際にやってみてできたという具体的な自信です。学び方を学び、学習者としての自信がつけば学生生活をより有意義に過ごせるし、社会に出てからも一生学んでいけます。その自信を持ってたことが満足度につながったのではないのでしょうか」。

アクティブ・ラーニングを取り入れるときは、最初は話す順番や発表の仕方などを細かく指示することがコツだと助言する。

「学生の経験やコミュニケーション能力はさまざまなので、いきなり自由にやらせてもうまくいきません。まずは枠組みを作っておけば、慣れるに従って自発的に話せるようになります。私自身の経験では、そうやって段階的にレベルを上げていくのが効果的でした」。研究者としては実践上での教員の困りごとにも関心がある。「アクティブ・ラーニングを取り入れたい先生と、専門分野を超えてコラボしてみたいですね」。

**優秀な高度授業TAのおかげで授業の質をレベルアップできた**